日本音声学会（Phonetic Society of Japan）大会投稿論文原稿作成の手引

玉田 誠・芳賀 紀行（山葉大学大学院）Max Biaggi (Suzuki UNIV)

{tamada, haga}@yamaha.ac.jp, biaggi@suzuki.edu

# はじめに

これは，2007年度日本音声学会全国大会の原稿作成方法を記したものです．以下に要領を列記しますので，これに従って原稿を作成して下さい．また，MS-Word 版のこのファイルは，ページサイズ・行数等が設定してあります．また，「タイトル」「氏名」「メールアドレス」「見出し」等のスタイルも設定してあります．テンプレートとしてもお使い下さい．

# 論文作成上の注意

## 一般的注意

原稿には，今回発表する内容とその資料を詳しく記述してください．

## 注意事項

* 頂いた原稿はそのまま印刷に回しますので，コピーではなくphoto ready の原稿をお送りください．
* 図表などは明瞭に描いてください．また，図，表，写真等を貼る場合は，はがれないようにしっかりと貼って下さい．
* 原稿はA4版ですが，縮小印刷でB5版になります．
* A4サイズの用紙に横書きで，ワープロソフト等を使って作成して下さい．
* 1行 35字程度，1ページ 40行程度，6ページ以内で作成して下さい（図表を含む）．
* マージン: 天 30mm，地 35mm，左右 30mm（必ずお守りください．これより外れると印刷されない可能性がありますのでご注意ください．）
* タイトル，氏名・所属，の間は１行あけ，氏名・所属の下も１行あけて下さい．著者の所属は括弧付きで書いて下さい．

所属の後に発表者の連絡先（住所やE-mail address等）を記載しても結構です．所属先は、・・大学・学部 / ・・大学大学院・・系研究科等とし役職，課程名や詳しい専攻名等は省略してください（非常勤の場合にも同様に役職名は書かなくて結構です）．

* ページは鉛筆で右下端に記入のこと．後で通し番号をふります．

## MS-Word版に関する注意

* なるべく，設定してあるスタイルを利用してください．スタイルは，フォント名の隣のダイアログで「標準」や「タイトル」などが指定できるようになっています．
* 複数行に渡るタイトルの場合には，改行せず，空白文字等で字送りをしてください．
* 原稿に使用する言語が英語中心の場合には，英語版のサンプルファイルを使用してください．

# 実例

日本音声学会は 1926（大正 15）年に，「音聲學協會」として創立された．創立 10 周年の 1935（昭和10）年に「日本音聲學協會」，さらに創立 25 周年を目前にした 1949（昭和 24）年に「日本音聲學會（日本音声学会），英名 The Phonetic Society of Japan」と改められ，現在に至る．

表 1: 平均得点および平均反応時間

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 得点（平均） | 反応時間（平均） |
| グループA | 134.450 | 1.202 |
| グループB | 98.023 | 1.225 |
| グループC | 128.229 | 1.559 |



図 1: 図のサンプル

# 結論

「音聲學協會」創立当時の趣旨は「本会ハ広ク日本語及ビ日本領土内ノ言語ノ音声ヲ研究スルコトヲ目的トスル．」（会則第１条）であった．現在の学会趣旨は「諸言語の音声に関する研究を促進し，併せて会員相互の連絡提携を図ることを目的とする」（会則第２条）である．

参考文献

Dauer, R. M. (1993) "Stress-timing and syllable-timing reanalyzed", *Journal of Phonetics* 11, 51-62.

小松英雄 (1981) 『日本語の音韻』（「日本語の世界」第7巻） 東京：中央公論社

大野眞男・久野眞・杉村孝夫・久野マリ子 (2000) 「南琉球方言の中舌母音の音声実質」『音声研究』 4:1, 28-35.

Ladd, D. Robert (1984) "English compound stress." In D. Gibbon and H. Richter (eds.) *Intonation, Accent and Rhythm*. (pp. 253-266). Berlin: de Gruyeter.

Notfound, S. (2001) *Not Found's Web diary*. Tokyo: Sarusaru Nikki.